

キャンパス O ツアー対象レースへのお願い

文責：八房穰（日本学生オリエンテーリング連盟 事業部員）

各大学オリエンテーリング部様

日本学生オリエンテーリング連盟（以下日本学連）では、今年度キャンパス O ツアーを企画しております。

本企画では、日本学連加盟員を対象とし、対象大会への参加や運営に応じてポイントを加算し、一年間の合計ポイントで表彰を行います。

より多くのキャンパス O 大会を対象大会としたいため、各大学においてキャンパス内でのオリエンテーリング大会の開催をお願いしたいと考えております。

対象レースとなることで以下のようなメリットがあると考えております。

- ・ 広報力の増加及び参加者の増加

本企画に参加することで、日本学連加盟員の貴大会への参加促進になると考えております。

- ・ 運営校へのポイント

前述の通り、対象大会運営においてもポイントを加算する予定です。

- ・ 社会的信用の獲得

対象大会へ参入していただける場合、日本学連名義で後援いたします。

こちらからの要望といたしましては、要項にキャンパス O ツアーの対象大会である記述、エントリー時に所属を少し変更してもらうことの周知をしていただければ大丈夫です。

以上を踏まえ、対象大会へ参入していただける場合は下記の連絡先までご連絡いただくと幸いです。

Mail: nichigaku.zigyoubu@gmail.com

以上

CAMPUS-O TOUR 2023

ルール概要

2019年に行ったキャンパスOツアーを4年ぶりに復活します!!!

このテキストはツアー戦のルール概要をまとめたものです。

1. ツアー参加資格

本ツアーは、日本学連加盟校/準加盟校による大学ごとのポイント制対抗戦です。該当校構成員が本ツアーの対象となります。

2. ツアー対象レース

ツアー対象レースはツアー事務局が適宜発表します。多数の大学で開催予定ですので乞うご期待ください。

3. エントリー時注意事項

対象クラスは原則男女最上位クラスです。ポイント計算の都合上所属を以下のように表記をお願いしたいです。

例：関東大学の学連登録2年目→関東大学2

4. 順位ポイント

[順位カテゴリ]

レースの順位は、

男女別

学連登録年数別（1,2,3年目および4年目以上）

で事務局が判定します。エントリー時の所属の表記に注意してください（前項参照）。1年生も同期の中で争えるので頑張ってください！

[ポイント配分]

上記の順位カテゴリ内において、下表のように素点を定めます。

学年別の順位になるため、高得点も狙いやすくなっております。

順位	ポイント
1位	100pt
2位	90pt
3位	80pt
4位	70pt
5位	60pt
6位	50pt
7位	40pt
8位	30pt
9位	20pt
10位	10pt
完走	5pt

完走しても得点が入る参加重視型の配点ですので積極的に出走しましょう！

5. 運営ポイント

ツアー対象レースの運営に参画した大学全てにそれぞれ運営ポイント 1000pt が加算されます。

これらのポイント加算は該当校からの自己申告に基づきます。

6. ポイント集計と表彰

ポイントは各レース終了後に事務局で集計し、発表します。

併せて、その時点での各大学の順位も発表します。

最終戦終了後、総得点数(順位ポイント+運営ポイント)が1~6位の大学を表彰します。

7. お問い合わせ

このツアーに関する質問等は

nichigaku.zigyoubu@gmail.com

までお気軽にどうぞ

春インカレ宿泊幹旋問題 今年度の方針について

22年度日学幹事長 浴本悠貴

目次

- 1,ここまでの議論の整理(簡潔に)
- 2,数字で見るインカレ
- 3,具体的な学生の不満
- 4,現時点であがっている候補とそれにまつわる観点の重要度の整理
- 5,4の各項目の詳細説明
- 6,結論(今年度の方針)
- 7,おまけ(春インカレへの学生の参加者を増やすために)
- 8,今後の流れ

1,ここまでの流れ(簡潔に！)

- ①北大から斡旋の自由化を求める意見書が届く
- ②春インカレまで時間がなかったことなどから2022年度は従来通り斡旋を行うことに決定
- ③しかし、蓋を開けると秋インカレに比べて参加者100人以上減。また、宿の格差など参加費が高額であること以外の不満も表出
- ④春インカレの参加者を増やす&学生の不満を解消すべく、日本学連で議論を行った

2, 数字で見るインカレ

▶22年度の秋インカレと春インカレの参加者数比較

https://docs.google.com/spreadsheets/d/1ALQ5zq1kOKrMmrPmkzgRi0QwVYjgbrj-/edit?usp=share_link&oid=106275301418881278789&rtpof=true&sd=true

▶参加者数に関する考察

https://docs.google.com/document/d/1--v1OCV9o8g81gdKfKR55GkcuDSaG2D8/edit?usp=share_link&oid=106275301418881278789&rtpof=true&sd=true

3,具体的な学生の不満

- ①春インカレの参加費が高い。
- ②高額な参加費の内訳が見えない
- ③宿によって不公平感がある(ビジホでこんなに高いの。朝の時間や宿の差は競技成績にも影響が出る)。まだ自分達で決めたなら納得できるが、現状宿は勝手に決められてる感覚が強い。
- ④なぜ秋は幹旋がないのに春だけ幹旋をしなければならないのか
- ⑤全日本やCC7といったインカレより参加者数が多い大会でもどうにかなっているのだから宿泊難民が生まれることにはならない。
- ⑥参加費が高くて1年生が来ない

→1年生が来ないというよりはどの学年も来ていない感じだったので、今回はこの問題ではなく、上記5つの解決に注力する

①参加費が高い

⇔(22年度の場合)基本参加費は8500円で演出面や会計面等を考慮するとこれ以上は下げられない。下げるとしたら宿泊費交通費の部分。

が、宿泊斡旋をする場合、宿泊費交通費を下げるのは容易ではない(その理由については次ページで紹介します)

②高額な参加費の内訳が見えない

→(22年度の場合)32000円の内訳は

宿泊原価:金曜9000円土曜12000円

バス代片道2000円×3(ミドルの往復+リレーの行き)

+手数料5000円

③宿によって不公平感がある(ビジホでこんなに高いの。朝の時間や宿の差は競技成績にも影響が出る)。まだ自分達で決めたなら納得できるが、現状宿は勝手に決められてる感覚が強い。
⇒数百人を1箇所泊めるのは現状不可能(特に田舎で開催されることがほぼ当たり前のオリエンテーリングにおいてはテレイン近くにホテルがないこともざらにある)であるため、宿泊斡旋を続ける場合、これはほぼ解決できない(ビジホは返金額を大きくするくらい?)

宿泊斡旋をなくした場合

多くの学生がテレインから遠いホテルに泊まる

→①実行委員会が今のタイトなスケジュール通りで運営ができるのか

②参加する学生はまともな競技環境を享受できるのか

(参考までに)

22年度の場合、ホテルニュー塩原かホテルニューイタヤ(ビジネスホテル)

ホテルニューイタヤに泊まった人に対しては 1人あたり3000円の返金が行われた

楽天トラベルのサイトだと

この時期で

ホテルニュー塩原 :8900~15800

ホテルニューイタヤ(ビジネスホテル)素泊まり 3500~

④なぜ秋は幹旋がないのに春だけ幹旋をしなければならないのか

⇔秋と違って春は大会以外に開会式・モデルイベント・後夜祭・講習会がある。日本旅行さんに手伝ってもらうことで担保できている。

→秋同様大会しかやらないのであれば、春も幹旋なしが可能か。

⑤全日本やCC7といったインカレより参加者数が多い大会でもどうにかなっているのだから宿泊難民が生まれることにはならない。

⇔遠くに泊まるのであれば宿泊難民自体は生まれない。

①ただ全日本やCC7に比べ、インカレはスケジュールがタイトであり、8-9時に会場にいてもらおうとすると、どうしても近隣に泊まるしかない。

②各校がバラバラに泊まって遅刻連絡とかあっても当日実行委員会は把握できない可能性が高い。

③人数の多い大学は1箇所のホテルを自分たちでは中々取りづらい(+けっこう負担がでかい)。

日本旅行さんにまとめて取ってもらうことで1箇所に集まってミーティングとかできてる

→大学全体で集まらなくてもいい+実行委員会が交通宿泊に責任をもたない(遅刻とかは一切考慮しない)のであれば、斡旋をなくすことも可能？

(これをどう考えるかは人によって異なるから難しい部分)

4,現時点であがっている候補案

①一律斡旋(原則通り)

②一律斡旋しない

※ただし、この場合、開会式と後夜祭・講習会はできなくなる可能性がある

③希望者のみ斡旋

④遠方の大学のみ自由化

5,各観点の重要度整理

	①一律斡旋	②宿泊交通自由化	③希望者斡旋	④遠方自由
インカレの持続可能性	○	×	×	○
競技性の担保	○	×	×	○
ライト層の参加	×	○	○	×
モデイベ・開会式継続	○	×	×	○
宿の納得感	×	△	△	×
春インカレに係るお金の各校の納得感	×	○	○	△

5,4の各項目の詳細説明

前提：選手側が運営者にどこまでを求めるか

- 会場への到達手段（自由斡旋にするなら、電車で行ける、あるいは参加者全員が止めれる駐車場とそこから会場までの移動手段の用意）
- 競技スタートが朝9時以降（朝ご飯をしっかりと食べてコンディションを整えるという意味を込めて）

インカレの持続可能性について

- ①宿泊交通斡旋は全て日本旅行に依頼するので、実行委員会の負担が減り、また、学生側の予約担当者の負担も減るので○
- ②の自由化した場合、実行委員会の工数が増え、持続可能ではないので×
- ③希望者のみ斡旋とした場合、旅行会社からみるとボリュームが小さくなることと、人数が読めなくなることから、斡旋を受ける際の単価は逆に上がる(あるいは質が下がる)(さらには斡旋不可となる恐れも)
- ④遠方の大学のみ斡旋する場合、対象となる大学はさほど多くないので、おそらく現行とほとんど変わらないため、○

インカレの持続可能性について

幹旋をやめた場合、宿泊以上に問題となるのが、駐車場問題

例えば、長野県で1000人を受け入れられる

- ・テレイン隣接会場(選手権クラスのフィニッシュが会場となる制約・慣例がある)
- ・1000人分の車を停めることができる駐車場がある

場所はスキー場しかないが、春インカレの行われる3月はスキーシーズンまっただ中なので会場使用不可。

競技性の担保

①④だとほぼほぼ今まで通りなので、○

②③とした場合、タイムスケジュールがよりハードになるなかで競技に大きく関わるミスも出てくるおそれがあるので×とした。

次ページに自由宿泊とする場合、競技に関してどのような影響が出てくるのか坂野さんより詳細な意見をいただいた。

坂野さんより運営的な観点

- ・リレーの競技時間は長いので、必然的に朝早くなり、選手はどこか宿に泊まることになる
- ・ミドルを早く終わらせて会場レイアウトを大きく変えるリレーの準備をしないといけないので、ミドルも朝早くから開催したい
- ・運営や併設含め約1000人分駐車場の確保は現行のテレイン選定方針上ほぼ不可能であり、宿からバスで大量輸送するのが効率的
- ・遠い駐車場や運転手のみ運営で輸送するにしても朝に人員や時間がかかり、トラブルのリスクかかえるのは運営上避けたい

→そのため、自由宿泊を認めるためには

- ・駐車場の確保優先で競技性の低いテレインを許容
- ・リレーやミドル運営の時短のためにこれまでより短縮されたコース
- ・会場周りのレイアウトの単純化、つまり演出や観戦の魅力低下
- ・エリート選手もクラブのために輸送や宿泊に奔走する

といった競技性の大幅な妥協の必要がある

ライト層の参加

①④ほとんどの大学は宿泊斡旋があるので、今まで通り高額の参加費を払わねばならず、ライト層の参加があまり見込めないので×

②③は今までより春インカレの参加費は安くなりそうなので、参加者増が見込めるため、○(その他の出費についてどうなるかは不明)

※実際にトータルでどれくらいの出費がかかるのか概算した資料が[こちら](#)

モディベ・開会式の継続

①④の場合、今までも開催できているので○

②③の場合、金曜の宿泊が義務づけられないことになるので、そうなった場合、学生がモディベ・開会式に参加するかわからない。また、開会式の会場に駐車場が全然なかった場合、車をどこに停めるのか問題が発生するので×。

宿の納得感

①④現状は、宿の格差に不満を感じている学生もいるので×

②③自分で宿を取れるとなると、自分で取ったのだから納得はできそう。一方で早い者勝ちの宿取り合戦となり、その宿取り勝負に負けた学校は不満を抱くかもしれない。また、大人数の大学ほど大学のメンバー全員を一カ所に宿泊させることが難しいので、全員で集まってミーティングをするという春インカレ特有の文化ができない可能性がある。さらに、近隣の宿を取ることができなかった大学は極端に遠隔地のホテルに泊まらざるを得ない可能性があるため、今以上に宿の格差が大きくなるリスクがある。

そのため、結果△とした。

春インカレに係るお金の各校の納得感

①参加費の高さを感じている学生がいるので×

②③宿舎斡旋を自由化した場合、全ての大学の係るお金が下がる可能性がある。また、自分で宿などを決めるため、会場から遠かったり分散宿泊になったり、近いが高かったりしても納得できる(納得せざるを得ない)ので○とした

④一番会場に来るまでお金がかかると思われる遠方の大学が宿泊斡旋を自由化してもらうことによって多少係るお金を安くすることができるため、△

6,結論

北大のみ、宿泊斡旋を自由化する

理由：重要度の高いインカレの持続可能性、競技性の担保に○のついた①④のどちらかとなる。⑥個目の項目である、春インカレに係るお金の各校の納得性において①が×で④が△だったため、今年度に関しては④に決まった

7,おまけ(学生が少しでも安く春インカレに参加できるように)

ただ、参加費高い問題は依然としてあるよね・・・

→ということで、OBOGさんから「春インカレの高額な参加費に充当する」と使い道を明確にした上で、寄付を募る。そして、寄付のうち、3割の額を希望する大学に与えることができる。残り7割を各校の交通費に比例して配分する。

8, 今後の流れ

5月下旬: 日本旅行さんの青山さんと打ち合わせ

この結論で行くが、問題ないか&アドバイスあるか確認(議論ではなく、確認メイン)

6月頭: 総会にてこの資料を用いて報告(承認とかじゃなく報告ベースになるかと)

6月中旬: 23年度の春インカレの開催形態決定!!!